

平成24年5月30日発表

担当課：社会教育課市史編さん室

(熊谷市) 記者クラブ取材情報

事業の名称等 熊谷市史研究第4号の刊行

1. 実施日時等 平成24年5月25日(金) 午前・午後 時 分
 2. 会場・主催地 _____
 3. 主催者・関係者 _____
 - (1) 団体名等 熊谷市教育委員会
 - (2) 代表者名 教育長 野原 晃 TEL 567-0355
 4. 事業内容 熊谷市史編さん事業では、多くの調査・研究を行い、多くの成果を挙げている。
こうした中で、熊谷市史本編には掲載できない興味深い成果や、市民に一早くお知らせしたい調査結果等を発表する場として、毎年、市史研究を発行している。また、各編集委員等による熊谷についての論稿等も募集しており、今号も別紙にあるような多くの論稿等を集めることができた。
 5. 目的・理由 熊谷市史の調査・研究成果や各編集委員の論稿等を公表することで、市民の方々に熊谷の歴史により関心を持っていただくため。また、新たな熊谷の歴史像を提供することで、さらに興味を持っていただくため。
 6. 経緯・経過 平成21年より刊行し、今年度で4冊目となる。
 7. 影響・効果 熊谷市民の歴史への関心は高く、この類の本としては、かなりの販売数を誇っている。また、専門雑誌に取り上げられるなど、研究者の中でも評価を得ている。
 8. この事業の実施による特記事項・PRポイント 今号も、各分野の優秀な研究者である編集委員から多くの興味深い論稿を集めることができた。また、市史編さん事業で調査を行った古文書や板碑などの歴史資料調査の成果について、多くを取り上げることができた。
- (1) 県内の状況
- ア. 県内で初めて イ. 県内で 番目
- (2) 他市が実施している事業に比べて本市の特色 論稿の質・量が充実している。また、県内他市に比べて資料数が多いため、興味深い資料紹介・調査成果を掲載している。

・他市と同じ

※ 資料の有無 (☒ 有) ・ 無)

担当者 蛭間 健悟

連絡先 TEL 567-0355

熊谷の歴史再発見！

熊谷市史研究 第4号 700円

市史編さん室では、市史編さん事業に伴う調査研究から得られた成果や資料の紹介を行い、また、市史編集委員による論稿を掲載し、より一層熊谷の歴史に親しんでいただけるよう熊谷市史研究を毎年1回刊行しています。

村田 安穂 熊谷地方における神仏分離の様相—江戸後期神仏混淆(こんこう)の実態—

明治時代初期の神仏分離が行われるまで、「神」と「仏」は、明確に分けられていませんでした。こうした江戸時代後期の市内の寺院と神社の状況を一覧にして紹介します。

石山 秀和 戦後建立の筆子塚(ふでこづか)にみる「江戸」の「教育社会」

近隣の村々から集まった元教え子らによって、昭和26年に建てられた御正新田浄安寺の「島山晋快筆子塚」。この筆子塚を通して、江戸時代に通じる地域の教育社会を明らかにします。



齋藤 慎一 伝承の中の平安時代末期

—武蔵国幡羅郡西別府と別府家—

謎が多い東国の10～12世紀を別府の地より考えます。幡羅郡家機能の藤原四家(成田・別府・奈良・玉井氏)への継承を別府氏に関わる資料から新たな視点で考察します。

黒須 茂 だるま石と「百間出(ひゃっけんだし)」争論

久下東竹院の「だるま石」(左写真)は、荒川を使って運ばれる際、久下で転落した巨石です。江戸時代の村々の水の争いに登場する堤防「百間出」やだるま石などを通して、荒川と周辺地域を考えます。

中世石造物調査班

熊谷市の初発期板碑(いたび)概報(一)

建長4年(1252) 銘阿弥陀三尊図像板碑

日本最古が熊谷にある中世の文化財「板碑」、市史の調査で新発見や新発見のものが多く見つかりました。全国的に見ても注目される数点について紹介します。

また、存在するそのほとんどが妻沼地域に集中する長野善光寺の仏様を刻んだ板碑、その中で唯一年号を刻む資料について報告します。(右写真)



コラム 宮瀧 交二 絵葉書でみる熊谷の歴史 熊谷堤の桜 (左下写真)



水品洋介 武蔵国北部にみる御掟飼場と鷹場役人
新井 端 万吉観音院の「金吾小野」銘板碑について
寄贈・寄託文書の報告
板井篠場家文書、葛和田荒川宗一郎家文書、
川原明戸中島忠一郎家文書

熊谷市役所社会教育課・熊谷図書館3階・江南文化財センター・市史編さん室(妻沼展示館内)で販売を開始します。